

研究 主題	自ら課題を見付け主体的に課題解決に取り組む児童の育成を目指して ー体育科におけるバディシステムを取り入れた授業づくりを通してー
----------	--

第3学年体育科学習指導案

指導月日 令和3年10月18日
所属校名 石巻市立大街道小学校
氏名 佐々木 秀

1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

2 単元の目標

- (1) 跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、切り返し系や回転系の基本的な技をすることができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
(2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕(2)
(3) 運動に進んで取り組み、決まりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕(3)

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）体育〔第3学年及び第4学年〕内容の「B 器械運動」「ウ 跳び箱運動」を受けて設定した。器械運動は、器械運動系の領域として、中学年から「器械運動」と構成している。

跳び箱を使つての運動は、切り返し系・回転系などの動きに組み合わせ、できるようになる楽しさや、その出来栄を楽しむことができる運動である。跳び箱運動は、得意な児童にとっては、より高い段に挑戦したいという意欲をかき立てられる運動であるが、苦手な児童にとっては、怖いという不安が大きい運動である。中学年では、低学年から経験してきた運動遊びを基にして跳び箱運動の基本的な切り返し系・回転系の技を習得することをねらいとする。技を構成する「踏み切り」「着手」「空中姿勢」「着地」といった一つ一つの動きを確実に身に付けるために、技に関連する補助運動を活動の中に取り入れていく必要がある。特に高学年に向けて技を発展させていくためには、「踏み切り」と「着地」（技の始まりと終わり）をしっかりと行っていくことが重要である。

4 児童の実態〔第3学年1組32名〕

本学級には、男子14名、女子18名の児童が在籍している。Ⅰ期のマット運動においては、器械運動を苦手とする児童が多かった。しかし、バディを組み、友達からアドバイスをもらいながら練習に取り組むことで、技ができるようになった児童が増えた。また、バディシステムがⅡ期の授業でも役に立ちそうかという質問に対して、66%の児童が役に立ちそうと回答したことから、バディシステムが定着しつつある様子もうかがうことができる。

跳び箱運動に関しては、事前の意識調査から84%の児童が好きと回答しており、マット運動と比べると意欲的である。しかし、跳び箱から落ちることや、台にぶつかるのではないかと不安を持っている児童も少なくない。また、事前に行った実態調査では、ロイター板を使った「踏み切り」をうまくできていない児童や着手の後の「空中姿勢」ができていない児童が多く見られた。

これまで体育の学習で取り組んでいるバディシステムに対しては、66%の児童が跳び箱運動でも、バディを組み、できていない所などを教えてもらったり、補助してもらったりすることで、役に立ちそうだと感じている。また、タブレット端末の活用に関しては、自分の動画を後から確認することで、

練習の仕方を工夫することができそうと考えている児童が81%いることが、事前の意識調査から分かった。

意識調査（8月29日）		実施人数 32名
1. 跳び箱運動は好きですか。		
① 好き		19名
② どちらかという人喜欢		8名
③ どちらかという人嫌い		3名
④ 嫌い		2名
2. 1で答えたのはなぜですか。（自由記述）		
・楽しい ・跳べるとうれしい ・跳ぶのが好き ・高く跳びたい		・うまく跳べない ・ぶつかると痛い
3. 跳び箱運動でもバディを組むことは、役立ちそうですか。		
① はい		21名
② いいえ		11名
4. バディはどのように役立ちそうですか。（自由記述）		
「はい」の回答理由		「いいえ」の回答理由
・跳び方の手本となる。（8名） ・自分の苦手なところを教えてもらえる。（4名） ・一人でできないことでも助けてくれそう。（6名） ・アドバイスをしてくれる。（3名）		・一人で練習をしたい。（9名） ・練習の時間が減る。（2名）
5. 跳び箱運動でもタブレット端末は役に立ちそうですか。		
① はい		26名
② いいえ		6名
6. タブレット端末はどのように役立ちそうですか。（自由記述）		
・自分の動きを見ることができる。（2名） ・課題を見付けられる。（11名） ・苦手なところを見て練習できる。（10名） ・記録が残せる。（3名）		・うまく撮影できない。（2名） ・操作に時間が掛かる。（3名） ・練習時間が減る。（1名）

5 指導観

本単元では、3年生から跳び箱運動となり、基本的な切り返し系や回転系の技に取り組む。それぞれについて自分の能力に適した技ができるようにする。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、より上手に跳び越えができたり、高い段を跳び越えたりすることで跳び箱運動の楽しさや喜びを味わわせたい。実態調査で見えてきた児童の苦手とする「踏み切り」、「空中姿勢」といった跳び越えるために必要な動きを工夫することで、自分の課題を解決しようとする児童を育てていきたい。また、より高い跳び箱に挑戦するだけでなく、新しく学習する台上前転では、台の上で前転することが初めての児童が多いことから、恐怖心を持たせないために、練習場所を工夫していく必要がある。

指導に当たっては、バディシステムを取り入れるが、2人でのバディだけでなく、他のバディと練習を見合ったり、教え合ったりすることで、児童一人一人の課題解決に結び付けさせたい。単元を通して互いの良さを認め合いながら、協力し合うことで自らの課題発見に結び付けられるようにしていきたい。しかし、意識調査から、バディと一緒に練習に取り組むことで、自分の練習する時間が減り、一人で練習をしたいという児童もいることから、個人練習の時間を設定し、練習量の確保をしていきたい。タブレット端末の活用では、I期と同じように示範動画を入れておき、自分の動画と見比べ、課題発見をさせたい。また、運動量を確保するために、事前に課題を持たせておくこととともに、バ

ディ同士でアドバイスをさせておき、課題とアドバイスを持った状態で授業に臨ませたい。しかし、児童の中には、「操作に時間が掛かる」、「練習量が減る」という考えを持っている児童もいることから、タブレット端末での動画撮影する時間を決め、その時間以外を練習する時間にしていきたい。

6 研究主題との関連

本研究で検証したいバディシステム

- ① 自分一人では気付くことができない課題や解決する方法が分からないことでも、バディと一緒に考えたり、取り組んだりすることで解決に結び付ける。【みる・知る】
- ② 練習場所や運動器具の状態が安全かどうかを互いに確かめ合いながら、運動に取り組むようにする。【する】
- ③ できた実感を友達と味わうことで、喜びを共有し、互いの良さを認め合い、学習意欲に結び付ける。また、単元を通して一緒に運動することで、互いの成長を評価し合う。【支える】

Ⅱ期の授業実践では、目指す児童像②「課題解決に向けて、自分の考えや思いを伝え合うことのできる児童」の育成に重点を置き、本研究主題に迫るために、以下のような手立てを講じていきたい。

(1) 単元を通したバディシステムの導入

I期の授業実践では、2人でのバディ（ワンバディ）で取り組んできたことで、バディシステムにも慣れ、授業実践以外の運動においても、互いにアドバイスし合う姿が多く見られた。また、自分の課題を見付けるために、運動が得意な児童と苦手な児童を意図的に組ませたことで、アドバイスをもらって課題を見付けることができた児童が増えた。しかし、バディの中には、友達の動きを見ても、上達までいかない児童や、うまくアドバイスできないバディも見られた。そこで、Ⅱ期の授業では、「できた」、「跳べた」という達成感をより味わわせるために、自分たちのバディと上手な跳び方をしているバディと組ませ、ツーバディ（4人）やスリーバディ（6人）にすることで、多くの児童との関わりを持たせ、多角的にアドバイスし合い、学び合いを深めることで課題解決に結び付けたい。また、技の補助だけでなく、跳ぶ際に、タイミングを声掛けするといった言葉での教え合いで、バディシステムの「協力」に取り組ませ、互いの良さやできた喜びを共有できるようにさせたい。

(2) タブレット端末の活用

I期の授業実践やⅡ期に向けた意識調査では、タブレット端末での撮影や動画の確認に時間が掛かることが分かり、Ⅱ期の授業実践では、撮影の時間を練習の最後と限定することで、運動する時間を多く設定できるようにする。また、I期同様に、示範動画を事前に児童のタブレット端末に入れておき、体育の授業の前に、撮影をした動画と見比べさせる。児童が自分で課題を見付け、課題とアドバイスをもった状態で授業に臨ませる。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の楽しさや行い方を理解することができる。 (B(1)ウ)	①技の出来栄を視覚的に振り返って、自己の能力に適した課題を見付けようとしている。(B(2)ア)	①跳び箱運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。(B(3)ア)
②自己の能力に適した切り返し系(開脚跳びなど)や回転系(台上前転など)の基本的な技をすることができる。 (B(1)ウ)	②課題の解決のために考えたことを友達に伝えようとしている。(B(2)イ)	②互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技がうまくできたときの動きや気付いたことなどを伝え合う際に、友達を認めようとしている。(B(3)エ)
③基本的な技の発展技に取り組むことができる。 (B(1)ウ)		

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時3／8）

時数	1	2	3	4	5	6	7	8
導入	①集合・整列・挨拶 ②準備運動 ③準備 ④目当ての確認							
	オリエンテーション ・学習の進め方を知る。 ・安全な運動の仕方や場の準備の仕方を確かめる。	・補助運動をする。 うさぎ跳び かえるの足打ち 馬跳び						・バディごとに発表会を行う。 ・バディに技名や上手にできたところを紹介してもらう。
		・前時までの技（基本的な技）を練習する。 【開脚跳び、台上前転】						
展開	・場の準備をする。 ・補助運動の仕方を知る。（うさぎ跳び、かえるの足打ち、馬跳び） ・低学年で取り組んだ動きを確認する。 ・中学年で取り組む技を知る。（開脚跳び、台上前転）	・開脚跳びの動き方を実際に見せながら、技のポイントを確認する。 ・基本的な支持跳び越し技の練習に取り組む	・課題に合わせた練習場所での練習をする。 （踏み切り/空中姿勢/着地/着手）	・台上前転の動き方を見ながら、技のポイントを確認する。 （動画/演示）	・課題に合わせた練習場所での練習をする。 （踏み切り/空中姿勢/着地/着手）	・かかえ込み跳びの動き方を見ながら、技のポイントを確認する。 （動画/演示）	・課題に合わせた練習場所での練習をする。 （踏み切り/空中姿勢/着地/着手）	・これまでの取組について振り返り、気付いたことについて発表する。
			・他のバディと練習の様子を見合う。	・課題に合わせた練習場所での練習をする。 （踏み切り/空中姿勢/着地/着手）	・他のバディと練習の様子を見合う。	・他のバディと練習の様子を見合う。	・他のバディと練習の様子を見合う。	
			開脚跳び	台上前転	かかえ込み跳び			
			・練習の様子をバディに撮影してもらう。					
終末	・学習の振り返り（自分の課題についての振り返り→タブレット端末で記入） ・片付け							
評価	【知識・技能】①	【知識・技能】① 【思考・判断・表現】①	【思考・判断・表現】②③ 【主体的に学習に取り組む態度】②	【知識・技能】① 【思考・判断・表現】①	【思考・判断・表現】②③ 【主体的に学習に取り組む態度】②	【知識・技能】① 【思考・判断・表現】①	【思考・判断・表現】②③ 【主体的に学習に取り組む態度】②	【知識・技能】①・②

8 本時の計画

(1) 目標

技のポイントを意識しながら、バディと教え合い協力して、進んで練習に取り組むことができる。

(2) 本時の指導に当たって

課題解決に向けて、自分の考えや思いを伝え合うことのできる児童を育成するために、授業を構成していく。

バディと前時に確認した開脚跳びのポイントと自分の課題を話し合い、必要な練習場所を決めさせる。その際に、練習場所が、技のどのポイントなのかが分かるように掲示物を貼り、視覚化することで選びやすくする。ワンバディだけでは、うまくアドバイスすることが難しい児童もいるため、練習をする中で、うまく練習ができていないバディや、アドバイスできていないバディを見取り、練習が上手なバディと組ませ、ツーバディ（4人）、スリーバディ（6人）とし、多くの児童との関わりを持たせていくことで、自分の課題解決と結び付け、「できる」実感を味わわせたい。

授業の終盤に、動画撮影の時間を設定し、練習したことを意識して、自分の目標の段に挑戦し、動画を撮影させる。動画を確認し、バディと見合い、次時の課題や目標を話し合わせておく。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示	形態	指導上の留意点	評価
導入 8分	1 整列・挨拶をする。 2 準備運動をする。 ・教師の動きに合わせて各位の運動をする。 3 補助運動をする。 ・跳び箱運動につながるトレーニングをする。 （うさぎ跳び/かえるの足打ち/馬跳び）	一斉 個人	◎すぐに準備運動ができるようにするために、最初から間隔を取って並ばせる。 ◎正しく準備運動をするためにポイントをアナウンスする。 ◎本時の技（開脚跳び）につながる補助運動を意識させる。	
展開 30分	4 既習の技を練習する。 ・開脚跳び 5 本時の目当てを確認する。 自分の課題に合った練習場所を選び、技ができるように見合ったり、アドバイスし合ったりしよう。 6 課題に合わせた練習をする。 ・できていない技のポイントをバディと確認する。 ・「踏み切り」練習 ・「着手」練習 ・「空中姿勢」練習 7 他のバディとともに練習をする。 8 練習したことを意識して、目標の段に挑戦する。 ・バディに練習の成果を撮影してもらう。	個人 一斉 2バディ・3バディ バディ	◎前時に撮影した映像は休み時間に自由に視聴できるようにしておき、基本的な技のポイントを意識させておく。 ◎技のポイントを教師が実演しながら、確認する。 ◎バディの役割を確認させる。 ・2バディや3バディで技を見せ合ったり、教え合ったりする。 ◎課題に気付いていない児童に対しては、技のポイントを確認し、補助をしたり、アドバイスしたりする。 ◎課題と違う場所で練習している児童には、自分の課題を確認するように声掛けする。 ◎課題に気付いたが、うまくできない児童には、補助しながら取り組ませる。バディにも補助の仕方を教師がコーディネートしながら行わせる。 ◎話し合う際は2バディまでとする。3バディの時は上手な児童の練習を見ながら学び合わせる。 ◎2バディ、3バディでの練習の仕方や補助の仕方を演示したり、教えたりする。 ◎安全面を配慮し、動画撮影する位置をあらかじめ設定しておく。	【思考・判断・表現】 ②③ 【主体的に学習に取り組む態度】②
終末 7分	9 学習の振り返り ・目当ての振り返りをし、発表した後に、目当てを達成できたバディに実際に跳ばせて全体で見る。 ・技のポイントとなることをアドバイスできたか。 ・次時のめあてを考える。	一斉	◎目当てを確認し、振り返らせ、次時の意欲につなげる。 ◎達成できたバディに実際に跳ばせることで、全体で称賛したり、認め合ったりさせる。 ◎アドバイスや補助ができた	

10 整理運動		かを確認する。 ◎安全に配慮しながら片付けるように指示する。	
11 片付け ・器具を安全に片付ける。			

(4) 本時の評価

	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する児童への手立て（C）
主体的に学習に取り組む態度	- 技のポイントを意識して、既習の技を生かしながら基本的な技に取り組もうとしている。 - 技ができる楽しさや喜びに触れることができるようにバディの動きに対して、気付いたことなどを伝え合っている。	- 開脚跳びに進んで取り組もうとしている。 - 互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技がうまくできたときの動きや気付いたことなどを伝え合っている。	- 基本の技を定着できるように補助したり、アドバイスしたりする。 - 少しでも上達したことは、大いに称賛する。
思考・判断・表現	技のポイントを意識して、友達にアドバイスしたり、アドバイスを聞いて考えたりしながら活動している。	課題の解決のために考えたことを友達に伝えることができる。	- 教師や友達からのアドバイスを受けて、練習場所を選ぶことができる。 - タブレットを活用しながら、示範映像を見せたり、友達の動きを見せたりする。

(5) 準備物

- ① 教師：跳び箱、マット、電子黒板、タブレット端末
- ② 児童：タブレット端末

(6) 場の設定

